

Versiv ダブルアップ・キャンペーン限定 無償プレゼント “FI2-7000” とは？

1. 光コネクタ端面の汚れや傷が確認できるスコープと Versiv本体をセットにしたキットです。

光コネクタの端面観察と自動合否判定が可能です！



Versiv本体

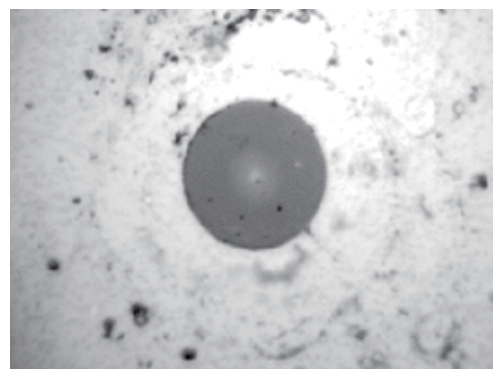


ファイバーインスペクタープロ 端面検査スコープ (FI-1000-KIT)



FI2-7000 本体と同梱物

光ファイバー配線トラブルの原因は、8～9 割がコネクタ端面の汚れに起因すると言われています。



実際の汚れによるトラブル発生の例

長期間にわたってコネクタの着脱を繰り返したことによって汚れが蓄積したことにより、損失が2～3dB増加することもあります。



自動評価による端面検査表示画面例

自動評価による端面検査表示画面例：IEC 61300-3-35に基づいて端面の問題を検出し、規定を越えた汚れを赤く表示します。

2. Versiv本体が2台になり、施工時端面検査の効率が2倍にアップ！

キャンペーン対象製品には端面検査スコープ FI-1000-KIT が付属しています。
キャンペーンにご応募することでさらにもう一台端面検査スコープがご利用できます！

CertiFiber® Pro 光損失測定試験セットの例

FI2-7000ファイバーインスペクタープロ



Versiv本体



Versivリモート



ファイバーインスペクタープロ FI-1000-KIT



Versiv本体



ファイバーインスペクタープロ FI-1000-KIT

3. Versiv本体が2台ある場合のメリット

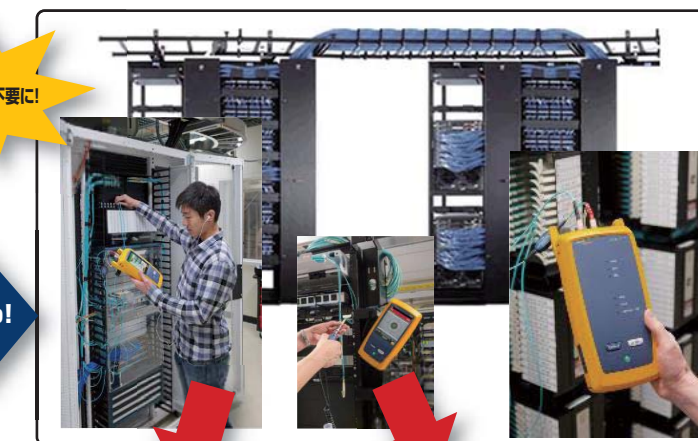
Versiv本体が1台の場合

CertiFiber® Pro 光損失測定試験セットの例



“Versiv本体が2台ある場合のメリット”

切り替えなしで「損失試験」と「端面検査」を専用測定



①

損失試験



Versiv 本体 1 台目

②

端面検査



Versiv 本体 2 台目

「損失試験」と「端面検査」の切り替え作業は必要ありません！

文書化

リモート側での端面の検査結果を、損失/OTDR 測定の結果を保存した際の ID と同じ名前で保存をすれば一つの試験結果としてまとめることができます。

あるいは

Versiv 本体を両端に配置すれば、端面検査や測定不合格時のトラブルシューティングを同時進行で行うことができ、作業効率もアップします。また、2 つの画像データを損失試験レポートに統合ができます。

*損失測定を行う本体側では、測定と端面検査の切り替えが必要になります。

ご購入品



プレゼント品



損失/OTDRの測定結果に、両側の端面の検査結果を統合することができます。

画像データの統合